

西：そのあとは早かったですよね、検討委員会会議が集められて、その翌年には木育マイスターの研修が始まった。

木育をどう広げていくのか ～木育マイスターを生み出す

煙：テキストとか何にもない年から始めるっていうのが行政の考え方だったんですよ。いやいや待ってください。ちゃんとしたカリキュラムもテキストもない中で始めるっていうのはあまりにも無謀だと思います。やっぱりどんな人づくりをしたいかっていうのをきちんと考えてから始めましょう。ということで、1年の猶予ができたってことです。

西：座長が宮本さんでね、テキストも大変だったんですよ。

宮：そうなんです。理念と実務がありまして、煙さんは理念の人なんですよね。それをどう形にしたいのかがあっていう。この時に協働でやっていくためには、異なるものを橋渡ししてくれる役

割が大切だったことを学んで、コーディネーターを作るところからスタートしたんですけど、初めて事務局の辛さを感じました。みんな本当に勝手なことを喋るんで。

西：いよいよ2010年に研修がスタートしました。私も講師として参加していましたが、どういった人たちが受講してくれるのかなとか、不安な面がありましたよね。今日も一期生の方が何名か来られてらっしゃいますけれども、一期生の活躍が後輩たちにつながっているんだと思います。これで木育マイスターの研修が始まりました。

2013年は道の方で「森林づくり基本計画」の中に木育のことが入ってますし、全道の森林室でも木育の担当者が配置されるとか、行政の面が動きました。また、マイスターの支部が初めて道南に設立されました。

2014年、10周年ということで「木育next10」ということになりました。

煙：いろんな形の紆余曲折を経ながらもやっと世の中が木育って言葉に馴染んできたので、「木育next10」というイベントをしたんです。その時、木育絵馬というのをやって、それが百何十枚も集まったんですね。やっぱり皆さんとっても想いが深いんだと、これから先の10年を目指して頑張ろうという決起集



会みたいなものでした。

西：この頃は木育マイスターも各地で活動が始まって、木育もだんだん道内に普及していったという時期になります。2019年に「木育マイスターフォローアップ研修」が始まりました。マイスターは増えたんですけども、いろんな事情で活動されてない方がいるということで、お手伝いができるんじゃないかと始まりました。

宮：あまり活動されてない方を引っ張り出して活動促進したいというのが思いだったんですけど、当たり前のことで、やる気のある人が勉強するんですよ。募集してみたら普段一生懸命活動している人たちが来ちゃった。この辺は今でも議論になってます。一生懸命やっている人をもっとスキルアップさせるのか、活動してない人を掘り上げるのか。

西：コロナ禍でもマイスター研修は継続して行われていました。北海道としても重点取り組みとして木育マイスターや

企業による木育の推進というものが掲げられています。

2023年、木育マイスター研修はA日程、B日程と変わりました。応募者がすごく増えまして、マイスターになりたいとでもなれない人が続出したので。

20年の活動を振り返ってみますと、まずは「木育はつながりのキーワード」。つながりは北海道の木育にとってすごい重要なんです。『あれも木育、これも木育』と書いてますが、森と木、地域、企業、いろんなつながりがあって、そこから新しい展開やビジネスが生まれています。対象は子どもから高齢者まで、なんといっても木育マイスターによる活動。様々なプロフィール、多様な専門性ですね。

北海道と道民との協働という面も非常に大きいです。木育マイスターは全道に散ってます。北は稚内、礼文島。南は函館、えりも町。東は根室。各地でいろいろな活動をされています。道外の木育関係者からも注目されているという。



煙：一番最初は協働から始まったから、ものの考え方や見方や一つじゃないんですよ。あの人がこれをやっているから違うことをやろうとする人が出る。喧嘩するのではなく、お互いがそれぞれやることで質や幅が広がっていく。「北海道の木育」はそういう意味では良い広がりをしているんじゃないかなと思います。

この北海道がやってる「木育マイスター」という人づくり、人材育成ですけど、もっともっと道外にまで広げて、お互いに協力し合いながら、日本レベルでも木育が広まっていけばいいなと思っています。

木育を未来へ ～next50の先へ

西：みなさん、当時思っていたことと全然違うとか、思い描いた通りになったとか、それについてお願いします。

演：思い描いていた以上です。多様な人たちがどんどん木育に関わってくださって、道庁は木育を推進して頑張っています。マイスターのみなさんはそれぞれの地域でどんどん活動を広げていただきたいなと思っていて、ご自身の自治体で「ぜひ協力してください」ってお話をさせていただければと思います。その時に地元の振興局の木育担当を引っ張り出してですね、森林環境譲与税とか



森づくりの理解を深めてもらうための予算があるので、そういうの活用していただければと思います。

宮：今日も若い事務局、ほんとにご苦労様でした。さっきの話の続きでもう20年やったので木育って言ったらいっぱいの人たちが知ってますし、木育のマーケットの部分は出来上がっている。そして教えるというのも続いていくので、あとは木と生きたいとか森の中で何かしたい人にどのようなサービス・商品を提供するかは、みなさん考えればハッピーになりますよね。

煙：木育20年になりましたけれども、これで区切りじゃないんですね。これから先もずっと、NEXT50もそうですし、決して50がゴールじゃないんですね。そのことを目指して、いろんな価値観を持つ多様な人たちが、今日のテーマであるつながりを持ちつつ、自分たちの目指す木育を一生懸命やっていく、それが大事なんだと思います。ぜひみんなで頑張ってください。

木育マイスター 交流会

イベント後に行われた交流会では、マイスター同士のネットワーキングが繰り広げられました。

報告：佛坂 樹華（事務局）



木育マイスター限定の交流会を実施しました。これは、「自由に雑談を交わし、楽しい一時から新たな関係や取り組みが自然発生したら素敵！」という発想で企画されたものです。

交流会では、各テーブルで美味しいものを食べながら交流した後、歩き回って話を聞いてみたいマイスターの所に声をかけに行ったり、「この人とこの人をつなげたら面白そう」と知り合いを紹介したり、活気のある時間

となりました。

事務局の「人数を集められるだろうか」という心配をよそに多数の申し込みがありました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございます。残念ながら参加できなかった方はまたの機会にお会いしましょう！全道のみならず全国から集まっていた皆さん、皆さまの笑顔を見ることができて大変貴重で尊い会になりました。50周年記念もぜひ、木育マイスターで交流しましょう！

美味しいもの

BEURRE キャラスク

大沼町産のメープルシロップをふんだんに使った贅沢なキャラスク

ハママスのノンアルコールジン

精内ジンの鶴田さんが非売品をご用意くださいました

焼製カシューナッツ

厚岸町の木の木くず等で焼いたカシューナッツ

事例発表

森づくりイベントについて

森田 信雄氏

幼保連携と森遊びについて

伊藤 みかみ氏

習物を使った活動について

大滝 英治氏

自然遊びについて

桂 充子氏

教育現場での木工について

植 大樹氏

木育マイスター
トークセッション

「木育」を広げる担い手となってきた
木育マイスターたち。
その思いについて話を聞きました。

木育は、いろんな
捉え方ができる

1期 日月 伸氏
菅広の森・はぐくむ

西：日月さんは一期生ということで、当時は木育という言葉がまだそんなに定着していなかった時代。受講しようとしたきっかけはなんだったんですか。

日：私、むかわ町の職員として林務森林に関わることを全般をやっていたのですが、僕自身、人に伝えていくことに興味があったので、木育に乗せてやれるんじゃないかなということもあって。

西：当時、まだ試行錯誤の時代だったんですね。どうでしたか受講して。

日：いろんな人がいるんだな。木育っていろんな捉え方ができるんだなと感じました。これはものすごく広がりがあるというか、いろんなふうに広げていけるんだらうなと思いました。

皆さん、何かやりたいことがあってマイスターになったと思いますので、一歩踏み出せば助けてくれる仲間がたくさんいます。どんどんやりましょう。

「つなげる」木育

8期 原 弘治氏
合同会社フィールドギフト

原：AMCCというのは、旭川木工コミュニティキャンプの頭文字なんですけど、これは旭川の若手の作家を中心にデザイナーとの繋がりが欲しいということ

で、相性が合う人が勝手に仕事をしたり方がスムーズだろうと、キャンプと一緒に酒飲んだり工場見学をしたり木工品を作ったり、街と森と木工ということでキャンプする、毎回200人くらいが参加する大きなイベントでした。

西：東京の方の若手のデザイナー、建築家が大勢参加しているというのがポイントですね。東京のデザイナーは木のこと知らない人が多いので、山で林業体験したり、製材所を見たり、非常に大きな影響を与えてますよね。

原：当初の目標のデザイナーと作り手をつなぐということから、今度はリアルな部分が大きくなっていくんじゃないかということで、若手の作り手、企業の社長とか、その繋がりが強みになるだろうということで、今はその部分を大切にやっています。

暮らしに溶け込む
木育を

6期 高山 真由子氏
Land Edge所属

高：木育マイスターを受講して、年齢も職業も様々、あれも木育これも木育っていうのが面白いものだな、と感じました。ごった煮とか、協働とか、変容性とか、そういう話を聞いて、初めからそうだったんだと思って。聞いていてストンと落ちました。

西：現在はトドマツの精油の方をやっているんですね。道東支部長ですが、そちらでは何を。

高：「釧路木づなフェスティバル」では道東支部でワークショップブースを出して参加者に楽しんでいただきました。こうした出展や講座をしています。あとは今年から相互研修を始めて、今回は丸善木材さんを案内していただいて。

煙：支部活動は、一番最初は道南、活動が活発になったら、今度は道東。その地域での木育イベント、そしてお互いの学びを深めようというようになってきている。地域レベルの活動として広がっていることに可能性を感じています。

高：木育が特別なものではなく、暮らしの中に溶け込んでいくものになっていくって欲しいと思います。

木育は海外にも
進出できる

三原 洸太郎氏
(株)カンディハウス

西：次のゲストは木育マイスターではありません。現在はカンディハウスの海外事業部のマネージャーをされており、卒業論文で木育をテーマにされていました。木育をテーマにしようと思ったのはどうしてですか。

三：始まりはオケクラフトを教えてもらって、置戸って人材育成にすごい力を入れている地域だったので、僕が教育学



部だったということもあって木育のことを調べました。「北海道の木工産地における木育活動の展開と意義」というタイトルで、「遊具・食器・家具に見る産地の繁栄と生活の豊かさ」がサブタイトルでした。家具にも興味があったんです。

今は旭川家具全体で、北海道の木を使おうという取り組みをやっている、今我々が使用している木材は70%が北海道の木になっております。今後は100%北海道産に、まだ決まってはいるんですけど、木育は海外でも事例として出せるんじゃないかなと。森にも木にも多分親和性あると思うんですよね。海外展開する可能性があるんじゃないかなと思いました。

木育マイスターと
言える自信

9期 八木 一馬氏
いぶり自然学校
木育NEXT50実行委員会

西：八木さんお願いします。今回の木育NEXT50の実行委員会の事務局長もされております。まずはいぶり自然学校・和みの森の活動をお話してほしいんですけど。



西：次は2名です。北森カレッジの内海さんと堀さんお願いします。お二人は今年度の木育マイスター研修を受講された北森カレッジの2年生です。まず内海さ

内海 沙希氏
堀 綾輔氏
北の森づくり専門学院
・木育マイスター



八：「和みの森」は市民参加型の森づくりをやってまして、0〜80歳の方が来ます。北大の子がボランティアに入ってくれたり、幅広く市民が参加している活動になっています。

煙：いろんな活動をご飯を食べるように木育をやっているようなと思って、私としては高く評価しているんですね。

八：マイスター研修を受けた時に、自分は木育マイスターでと言えるのが僕の中ですごく自信になったなと思っていて。それはこの木育全体のつながりがあったから、自分が何もできなくてもこんな人もいるというようにイメージづけてくれた10年20年だったんだろうな。僕はそれに育ててもらったので、そういうつながりをこれからも大事にして行けたらいいなと思っています。

んからお話を聞きたいんですけど、まず北森カレッジの志望動機は？

内：祖父が林業をやっていて、継ぎたいなと思って北森カレッジに入りました。それまでは、樹種は2〜3種類くらいしか知らなくて、入って学んでいくうちに面白いな、素敵だなと思って。この感動を他の人にも伝えたいなと思ってマイスター研修を受けました。

今までボヤボヤとマイスターでこんなことしたらいいかな思っていたのを具体的に考えることができたし、甘い考えじゃやっていけないというのも改めて痛感しました。林業では今まで活用されていない端材とかをメインに、木工とか、樹種を伝えたりとか、そういう活動をしていきたいと思っています。

堀：私は元々小学校の頃から木が好きで好きでしょうがなく、林業を学び即戦力になりたいということで北森カレッジに入りました。元々自然が好きだったんですけど、小学校のときに「黒松内ぶなの森自然学校」で初めてブナ林に入って木の実や葉っぱを食べたり、人工林や天然林の違いを色々聞かして、自分も森で活動したり森づくりをしたいなと思いました。

これからの木育へ

マイスターたちの思いを受けて、これまで木育を育ててきたメンバーが、未来への思いを語りました。

演：ゲストで出ていただいた皆さんありがとうございました。森や木との関わりは誰にとってもあると思うので、どう関わりを持って生きていったらいいかなと考えて、一つでも行動に移していただくことが木育だと思うので、そういう人を増やしていくことをマイスターの皆さんと一緒にしていければと思います。

宮：異分野がクロスするところに新しいものが生み出されるというのを体感した20年だ

と思う。基礎的には木が好きとか森で生活したい人とかの異業種交流的なのはなかなかないので、こういう異分野の人と繋がって、クロスしたところに新しいものを生み出してほしいなと思います。

煙：木育は心の森づくりだといつも言っているんですけど、それを一生懸命進めていくように、私たちが心の森づくりを並行してずっと続けていかなきゃいけないと思っています。だから、100年先も見据えて木育も続け

ていって欲しいな。

西：20年でここまで普及してきましたけど、どうしても木育は子ども向けとか、木のおもちゃで遊ぶことと思ってらっしゃる方がかなり多いんじゃないかなと思います。私はいつも、木育は全世代対象ですよ、子どもに木育をするなら大人もちゃんと知ったかきじゃないでしょ、と言うんですよね。だからみなさん、そう言うことを理解していただいて広めていってほしいなと思います。

木育マイスター 事例発表会

実際に木育を事業化したマイスターたちが
どのような活動をしているのか報告します。

大人の木育で北海道を塗りつぶしたい

7期
鶴田 恵利氏
株式会社
積丹スピリット
アグリマネージャー



自分たちの活動は大人の木育、何をしても木育になると思いますね。2016年にプロジェクトが始まったんですけど、馬を放牧して畑を作ることから始めました。どうして積丹から始めたんですかと言われると、煙山さんが「ジンできるじゃん」と言ったことで始まりました。

自分たちは1年かけてジンを作っています。というのも畑で育てるところという世界的に珍しいところから始めていて、農業も化学肥料も使わずに手作業で除草などもしています。乾燥施設も持っていて、植物たちが抜かれたことに気づかないほど綺麗に原料化をやっている、そこもこだわっているところです。蒸留機は2つ持っています。ひとつはジンを作る時の伝統的な蒸留機。もうひとつが減圧蒸留機といって低い温度で植物の蒸留ができる。一つ一つの植物ごとに蒸留してブレンドしているジンになります。植物ごとに蒸留酒を持っているので、色々な組み合わせでお酒を作れるということで、全国のジンを作っています。京都・石川・富山などいろんなところのOEMを受けています。北海道の中でも陸別・蘭越・長沼・厚真・占冠など森の恵みを活用したOEMも作っていて、そのうち北海道の地図を塗りつぶせるようになることが夢です。

大人にしか届かないんじゃないかと思われるんですけど、積丹町で小学生の卒業の時に毎年ジンを贈呈しています。子ども達の財産にもなるように一緒に森を作って、大人になったらジンを受け取ってねという思いで、ジンを贈呈して預かってまた渡すという活動もしています。

企業向けから公益まで、多方面に木育を届ける

11期
山本 賢治氏
一般社団法人
まなびのもり
執行理事/
株式会社ソダツクル
代表取締役



森町で木育を主軸に、人を育て人を作る、地域を育て地域を作る、ということをビジョンに掲げて会社をやっています。地域資源活用と環境教育、企画開発、ソーシャルデザインという文脈から、企業との森プロジェクト、サービス、社会を作っていくような木育です。「ソダツクル」という会社と木育マイスター道南支部の活動を法人化して「一般社団法人まなびのもり」も同時にやっています。

ソダツクルの方は、B to Bとして企業向けの福利厚生やサービス、プロダクトに木育を導入するものです。具体的には、日本航空と一緒に木育に取り組んでいて、社内向けに社員にこそ木育を知ってほしいと、首から下げるIDカードのケースを木で作ったり、一般の方に木育を広げるために機内誌で紹介したり。あとはHOKKAIDO WOOD展で航空会社が取り組む木育を紹介したり、組み立て式のウッドプレーンという飛行機モデルを発表しました。そのほか、函館のクリスマスツリー点灯に合わせて、昨年のツリーを製材して今年のオーナメントを作るワークショップをやったり、商業施設に来る親子が楽しめるようなイベントを企業と開催したり、コカ・コーラの「いろはす」のラベルのQRコードゲームに参加すると売上の1%が木育などの社会活動に寄付される活動もやっています。

「まなびのもり」の方は教育機関や市町村に向けて公益的な木育事業をやっています。幼児には小さい時に木で遊んだという記憶を持ってもらうための、「わたしのワンピース」という絵本を題材にした活動をしてみたい。小学校は、低学年は簡単に楽しめるパズルを作って色を塗ってみるとか、中学年には木材を地元の木を使って教科を横断した複合的に学ぶ図工の時間とか。高学年にはステップアップしてみんなで一つのものを作り上げて、他の子や地域にも還元されるようなものづくりといった、学年・年齢に応じたカリキュラムや木育をやっています。アカデミック以外にも、家族で楽しめる木育教室や、たくさんの方に楽しんでもらえる、五感で楽しめる木育フェスタをやったりしています。

楽器と演奏を 融合した木育活動



10期
長崎 結美氏
白鷗大学
教育学部講師

現在は栃木県で木育活動を行っています。専門は音楽で、幼稚園教諭や小学校教員を目指す学生に音楽の指導を行っています。同時に、研究活動として木育の中に音楽を取り入れて、五感を刺激する木育楽器について研究を行ったり、行政や企業とコラボして様々な木育楽器の開発を行っているところです。十勝総合振興局に協力をいただいて、地域材を使ったウッドブロックを作ったほか、ヤマハ株式会社のおとの森プロジェクトと端材を活用したハンマーダルシマやヤマハミュージッククラブ北海道と端材をアップサイクルしたカホンを開発するなど、楽器作りと演奏を融合した活動をしています。今後は木育楽器のテキストを出版したいと思っています。

ネットワークで 広げる木育



11期
村山 恵一郎氏
村山木材株式会社
専務取締役

私は会社で所有している山林で林業をしたり、その過程で山に人を案内したり、材を活用したりという活動をしています。こういう活動は以前からやっておりまして、北大森林研究会を対象に山林の案内や企業案内などもしています。マイスターになったのをきっかけに、マイスターのネットワークを使っているような地域に広げたり、ほかのマイスターに協力を仰いだりして、今後は全道の小中高生を対象に木育活動を広げていきたいなと思っています。

介護や医療にも 木育を取り入れる



1期
七戸 千絵氏
株式会社
The St Monica
代表取締役

東京で子育てをしていた時にKEMのおもちゃや木の砂場で遊んでいました。赤羽の高架下で子ども達500人を集めて広場をやっていたのですが、その時に立ち上げたセントモニカでは子ども達の木のおもちゃをお年寄りの介護で使ったり、プロダクトとしてはシラカバの樹液のドリンクや、キハダの実を入れたキャンディーを作ったりしました。

今は介護や医療で森の成分が使われたり、森や木というのはいろんな使われ方がするんだと体感したところです。先日、作業療法士の学会に北海道の木と共にプロダクトを提案したのですが、皆さんランペダーよりもトドマツやアカエゾマツのアロマを真っ先に手に取られるというのが良かったという印象です。

木材会社だからその 端材活用



13期
中野 百合華氏
三橋産業株式会社
係長

士別市の三橋産業株式会社という木材の会社で広報やリクルート中心に木育活動もさせてもらっています。普段は小学校やイベントでの森林散策のガイドや端材を利用したワークショップ、バーニングペンで絵を描くワークショップやイベントでの販売もしました。たまに教師や東京の企業に向けた木育講座もやりました。今後、士別市の博物館と一緒にサイエンスフェスティバルに参加したり、市内の森林散策を担当させてもらうことになりました。

私の野望としては、新しく取得した社有林で木育活動を展開したり、お酒が好きなので、木材チップをウイスキーに入れて提供できないかなと考えています。今後は端材を活用して新しいことをやりたいと思っています。何かコラボしたり協力できたら嬉しいです。

子ども達のそばに 木育を



8期
崎川 哲一氏
樹木医/
合同会社
森のビタゴラス
代表社員

「合同会社森のビタゴラス」は子ども達の現場に木育をどうやって繋げられるかなと考えて2018年に立ち上げて、今は札幌市の児童会館に170台。子ども達が歩いて行ける施設に必ず北海道の木のおもちゃや木育に触れられるという機会を作ろうとしています。あとは、札幌市の南区で放課後デイサービスもやっています。障がいのある子ども達にどうやって木育を繋げられるか、というのもやっています。最近では学校林や森の幼稚園をやられている現場の方で、所有している森がどんな森でどう管理をしていけばいいか、森は持っているけどどうしたらいいかわからないという先生方に、調査と研修とセットで提案をさせていただいたり、園庭や校庭の環境を北海道らしい植栽にしませんかという提案をしたりもしています。

NEXT50を想う

このイベントを通じて「木育」の50年目はどうなる？
「木育NEXT50」事務局を担った6人に聞きました。



吉小牧市を拠点に苦楽・和みの森の市民参加型森づくりを行う。馬や羊、鶏といった家畜と共生した里山の暮らし、里山農業を実践している。

つながりの力、次世代にも。

NPO 法人いぶり自然学校 / 木育 NEXT50 実行委員会事務局長
八木一馬 9期

「木育」という言葉が生まれてから20年、その価値は時代とともに変容し、常に新たな価値を生み出してきていると思います。当時の会議で「この言葉に魂を込めてほしい」という背景に、つながりや人・地域を大切にしたいという思いが込められていたのだと感じました。自分の子どもが生まれた際、木育のおもちゃを贈られる経験を通じて、それぞれの地域や人々が自らのつながりを詩りとして表現する素晴らしいことを実感しました。このような社会が、子どもが親となる時代にも受け継がれてほしいと願っています。

20周年を迎え、このイベントを木育マイスターや関係者が主体となり展開したことは、木育がさまざまな枠組みを超えて地域や異分野をつなぐ力として機能していける可能性を感じました。これからの30年も新たな価値を創造し、さらに広い地域で実りある活動が続けたいと強く思います。

つながりの化学変化にドキドキワクワク！

株式会社ソダツクル / 一般社団法人まびのもり
山本賢治 11期

とにかくできることはなんでもやってやろうって気持ちで木育 NEXT50 事務局を走り回りました。どうも自称北海道1木育活動をしているやまけんです。普段から木育をコミュニケーションツールとして地域、自然、人を繋いで活動しています。木育マイスターを取得してから本格的に事業として取り組み始めましたが、たった3年で年数回の木育が100回以上になりました。この拡がりやファンの増加はとてつもないエネルギーなんじゃないかと日々震えています。

3年でこれなら、30年後の50周年どうなっちゃうの？ 全国じやなくて世界中に MOKUUKU が広がってすごい事になっちゃうんじゃない？ そんな妄想をして過ごしています。20周年でのみなさんの出会いや交流がこれからどんな化学変化を各地でもたらすのか！ドキドキワクワクが止まりませんねっ！



木育をコミュニケーションツールとして企業や自治体、教育機関を中心に地域資源によるプロダクトサービス開発、イベント企画、キャリア教育などを行っている。



造形・自然体験教室の運営、ワークショップ講師、素材や自然にふれ、ひらめき・発見・工夫を促す環境を提供。木育では親子向けワークショップが中心。

魅力と繋がりと情熱、次の30年も。

ちいさなほっぱちいさなき 道場 祥子 11期

木育20周年イベント、人と人の繋がりが『北海道の木育』をつくる！そんな軌跡と未来を感じた一日でした。木育マイスター3年目の私。経験を積み重ねていた最中、事務局に関わるという展開に！貴重な機会と感じる一方戸惑いもありました。しかし、事務局メンバーとの出会いと共に構築していく時間の中、新たな木育の繋がりが生み出され刻まれていくことを感じることができました。

木育マイスター制度が誕生し15年。様々な「魅力」を持ち合わせる木育マイスターが道内各地にいて、そして、それぞれの力を合わせると大きなことに取り組めるということが、『北海道の木育』の最大の強みだと感じています。NEXT50へ向かうこの先30年も多くの「魅力」と「繋がりと」と「情熱」が、北海道発祥の木育を益々輝かしく発展させていけますように。



KEM 工房主宰、木工デザイナーとして北海道の木と子どもにこだわって活動している。2004年に木育推進プロジェクトに参画、木育体験プログラムの開発や木育授業など、積極的な木育に取り組んでいる。著書に『木育の本』（共著）など。
KEM 工房：http://www.kem.hokkaido.jp

「木と生きる」これからの30年

木育ファミリー / KEM 工房 煙山 泰子

木育20周年記念イベント事務局の皆さん、お疲れさまでした。事務局を担ってくださった6名の木育マイスターは、9期から13期のエネルギーに活動している若い方々が中心です。ただでさえ忙しい中、イベントの企画から運営の役割を果たすのは大変だったことでしょう。でもそこに、多くの学びや気づきがあったことが皆さんのメッセー

ジから読み取れます。
今回のイベントテーマ「つながり」は、木育の大切なキーワードでもあります。
木育のさまざまな活動のなかで人と人、人と自然との関わりを考えると、そして今の自分がこの先の未来とつながっていると実感できることが、木育の種のように感じます。北海道で木育が生まれて20年の節目に参加



林業現場作業員等を経て、現在は人工林造営及び自伐型林業を行う傍ら、自らのフィールドで自給自足の暮らしを構築中。元塾講師。ハンター。

楽しい「木育」、どうバズる？

木の種社 / カルマイの森 佛坂 樹華 13期

家を買いました。裏にある小さな山も。そこで山菜やキノコを採ったり、栗を拾ったりします。お弁当を食べてハンモックでお昼寝をします。リース素材や木工の材料がたくさんあります。魂を解放しながら生きることのできる居場所です。木が好きで山を買う。手入れをしながら暮らしの糧にする。それは日本の国土を守ること。「木とふれあい木に学び木と生きる」木育、人の心を豊かにするとともに国防でもあるのではないかと。最近はそんなことも考えたりしています。楽しくなければ広まらない。「食育」という言葉は明治時代に生まれ、「小説」というエンタメを通じて世の中に浸透しました。

木育はこれからどのようにバズるのか。マンガ？アニメ？YouTubeやTikTok？50周年はKitaraのホール！？木育NEXT50の活気からそういう可能性を感じました！わくわくしちゃいますね！

付加価値ではなく「潜在価値」を見つける。

もりのねこ / (株)やまのかいし / 森と街のがっこう
野中 穂 13期

「人と、木や森とのかわわりを主体的に考えられる豊かな心を育む」北海道の木育の理念で好きな一文です。人ごとじゃなくて、自分ごと。木育は、森林と木と、自分自身の暮らしをつなげるキーワードだと感じています。普段は環境保全型森林業に携わっています。森林業？環境保全？と、一言で伝えることができない難しさを感じる今日この頃。多様な場所で活躍されているマイスターたちもそれぞれの悩みがあることでしょう。悩みを共有し、活躍を報告し、ワイワイできる。そんな機会づくりが求められている木育NEXT50だったと思います。「同窓会のように楽しかったです」という参加者からの一言がとても嬉しかった。森や木には、元々見えにくい価値がたくさん。付加価値をつける、ではなく潜在価値をみんなで一緒に見つけていく。そんな考えが浸透していけば良いと思うのです。



札幌市を拠点に、猫の手を借りた方のサポート業を行う。6割は事務アウトソーシング。4割はチェーンソーを持って、森の景色を守る優良林業を伝える活動をしている。



夫と共に家具 × 建築をベースに木育マイスター、講師として活動。木工ワークショップから、家具・店舗什器、リノベーション、小販作りなどを手がけている。

『報酬』は、仲間とつながり。

『つきとふね』/ 北の道山観光協議会役員 / 黒山ビジターセンター運営委員会役員
黒炭 真弓 13期

私が木育マイスターになってから、研修会やイベントが年に何度かあり、私はそれにできる限り参加するようにしていました。というのも、それに参加することによって毎回『報酬』を得ているからです。といってもそれはお金ではありません。人とのつながりです。『木育NEXT50』で、私は事務局の一人として務めさせていただきましたが、この事務局6人が本当に最高でした。活動内容や地域は違っても、全員が木育を愛し、パワフルに活動している。中には初対面のメンバーもいましたが、言葉にせずとも何となく意思疎通が取れている。この仲間とつながり、働くことができたことこそが私の『報酬』です。私は今後もこのつながりの場を作り、次世代に受け継ぎ、北海道の木と進化し続ける木育と共に50周年を迎えられたら最高だと思います。

木育・20年の歩み

2004 (平成 16 年)	・北海道協働型政策検討システム推進事業の平成 16 年度テーマが「木育」に決定 ・同推進事業の木育推進プロジェクトがスタート	リーダー：辻井達一・北海道環境財団理事長 メンバー：水産林務部や生涯学習部などの道庁職員、NPO 法人理事（環境教育、子育て支援など）、公募住民（木工デザイナー、文具メーカー社員、編集者など）
2005 (平成 17 年)	・木育推進プロジェクト「木育報告書」（木育の理念などを記載）を作成。北海道知事へ検討結果を提出 ・木育推進プロジェクトメンバーを中心に、木育ファミリー（代表：煙山泰子）が発足 ・木育ファミリーが「木育リビング」を札幌で開催。以降、道庁主催イベントなどで木育ファミリーが協働して木育普及活動を行うようになる	
2006 (平成 18 年)	◆「森林・林業基本計画」が閣議決定。この中の「林産物の供給及び利用の確保に関する施策」において 「木育」とも言うべき木材利用に関する教育活動を推進する。」と明記された ・北海道が「木育公開講座」を開催。道庁赤れんが及び前庭ツアーを実施（赤れんががチャレンジ事業） ・北海道が全道 6 か所で「木育ランド」を開催 10,000 名が来場	
2007 (平成 19 年)	◆林野庁が「木材産業の体制整備及び国産材利用拡大に向けた基本方針」を発表 ◆林野庁が「木育推進体制整備総合委員会」を設置 ・木育活動促進助成事業の公募	
2008 (平成 20 年)	◆林野庁が、全国 3 か所（埼玉、島根、北海道「赤レンガ木育フォーラム」〔北海道との共催〕）で講習会開催 ・「北の元気な森づくりリシンポジウム」で木育ファミリーが木育体感広場を実施 ・木育ファミリーが「第 1 回 木育全国ミーティング in 北海道」（札幌）開催 ・北海道庁が「北海道森林づくり基本計画」を策定（改訂） ・洞爺湖サミット関連「環境総合展 2008」、「北海道情報館」における木育の発信 ・木育事例集 1 作成 ・『木育の本』（北海道新聞社）刊行	新たに、第 5 項目「木育の推進」において「木育は、人と森林や木材の「つながり」を重視し、豊かな『人づくり』と『社会づくり』をめざす北海道発の新たな概念です」と明記され、基本理念や施策の展開などについても詳しく記された。
2009 (平成 21 年)	◆「木育フォーラム in 岐阜」（岐阜県立森林文化アカデミー）開催 ◆埼玉、島根 2 か所で木育インストラクター研修会（NPO 法人活木活木森ネットワーク主催）の開催 ・北海道が木育プログラム等検討会議を設置し、人材育成事業に着手、また、「木育道具等普及システム検討会議」を設置	
2010 (平成 22 年)	・木育ファミリーが、むかわ町穂別（旧和泉小学校）の木育活動拠点事業に着手 ・北海道が「木育マイスター育成研修」を開始 ・北海道が木育道具パッケージシステム作成 ◆NPO 法人日本グッドトイ委員会（東京おもちゃ美術館）による林野庁補助事業の受託、木育インストラクター養成講座が東京・大阪で開講 ・『木育達人（マイスター）入門』（北海道・木育プログラム等検討会議）刊行	木育マイスター 1 期 38 名
2011 (平成 23 年)	・「木育フェア in アリオ札幌」が（株）イトーヨーカ堂と北海道との包括連携事業により実施。以降、2023 年まで毎年実施 ・木育マイスターによる「木育フェスタ」が七飯町大沼で開催。以降、平成 24 年からは東川町等でも毎年実施 ・北海道が「木育活動普及促進事業」で道内 12 か所に木育指導者と資材提供 ・『木育達人のための木育活動ガイド』を北海道、木育ファミリー、NPO 法人ねおずの協働により発行	2 期 37 名
2012 (平成 24 年)	・木育ファミリーが「森と人をつなげる木育～グリーンウッドワーク」活動を開始 ・岐阜グリーンウッドワーク協会より講師を招き、体験会などを開催 ・北海道が「木育活動普及促進事業」で道内 15 か所に木育指導者と資材を提供 ・木育事例集 2「木が育った森を感じるこゝろ」発行	3 期 39 名
2013 (平成 25 年)	・北海道が北海道森林づくり基本計画（平成 25～34 年度）策定 ・北海道が全道の振興局森林室に木育推進主査を配置 ・「第 1 回木育マイスター全道ミーティング」が札幌市青少年の家（滝野すずらん公園）にて開催 ・木育ファミリーが「第 3 回木育全国ミーティング in 北海道」（むかわ町穂別）開催、 むかわ町旧和泉小学校を木育活動拠点「むかわ木育の学校」を設置 ・木育事例集 3「木育のおはなしをしてみよう」発行	4 期 19 名
2014 (平成 26 年)	・「木育の 10 年をみつめて～木育 next10」（札幌）開催 ・木育マイスター道東支部設立 ・北海道が企業や団体と連携して、東日本大震災被災地へメッセージを添えた「きぼうのプール」寄贈する 「希望」を「きぼう」でプロジェクト」がスタート（赤レンガ・チャレンジ事業）。以降、2020 年まで毎年実施 ・木育事例集 4・地村地消事例集 1「森が歩んだ時をもとめて」発行	5 期 20 名

木…木育マイスターの動き 木…木育に関する発行物、出版物 ◆…国および道外の動き

2015 (平成 27 年)	・木育ファミリーの木育カフェ「私、こんな木育やってます！」で、木育プログラム体験会を実施 ◆林野庁が「ウッドデザイン賞」を制定し、公募顕彰事業を開始。木育マイスターの関係する 4 作品も受賞 ・木育ファミリーとグリーンウッドワーク協会が「北のグリーンウッドワーク・スキルアップ研修 in むかわ」をむかわ木育の学校にて実施 ・改訂版「木育リーフレット」を北海道と木育ファミリーの協働で作成	6 期 23 名
2016 (平成 28 年)	・「木育 next10」報告書を北海道と木育ファミリーで協働発行 ・当麻町に木育推進拠点施設「くるみなの木造館」オープン ・「北海道森林づくり条例」の改正で新たに、第 18 条として木育の推進が加えられる ・「第 12 回森のようちえん全国交流フォーラム in 北海道」大沼婦人会館・林業研修センターで開催 ・木育事例集 5「北海道の木育案内」発行	7 期 24 名 (累計 200 名)
2017 (平成 29 年)	・「北海道森林づくり基本計画」（平成 29～38 年度）に、木育の推進が新たな基本方向として加わり施策が示される。 ・「北海道木育フォーラム（第 2 回木育マイスター全道ミーティング）」が川湯ふるさと館・原野のもり（弟子屈町）にて開催 ・北海道が「木育推進事業」を拡充。「木育マイスターの育成・連携」など 6 事業を全道各地で実施 ・北海道が北海道森林管理局、公益社団法人北海道森と緑の会等と連携して 2012 年から実施してきた「北海道森づくりフェスタ」を「北海道・木育（もくいく）フェスタ」に改称 ・木育事例集 6「さわっていると、森にいるような気がする」発行 ・木育達人（マイスター）入門テキスト改訂版（電子発行）	8 期 24 名 (累計 224 名)
2018 (平成 30 年)	・木育ファミリーが、「いぶり自然学校・子どものための災害支援（東胆振 SVC）」が行う「穂別木育ボランティアセンター」と連携し、 むかわ木育学校を拠点とした木育活動やボランティア活動への協力を開始 ・とかち木育マイスターの会設立 ・北海道が「木育推進事業」を拡充 ・木育事例集 7「その先の、道へ。だれと行く？」発行	「教育における木育の推進」に「中道生等への林業・木材産業等の現場体験・実習」を加え、「木育マイスターの育成・連携」、「子育て支援における木育の推進」とあわせ全道各地で実施
2019 (令和 1 年)	・社会情勢の変化や新しい木育の取組などを学び、木育活動の底上げを図るため、木育マイスターフォローアップ研修を開始 ・オホーツク木育の会設立	9 期 23 名 (累計 247 名)
2020 (令和 2 年)	・北海道が「北海道の mokuiku（木育）」推進事業を創設 ・木育事例集 8「いつもそばに。～木と共に生きる～」発行	「子育て支援における木育の推進」「教育における木育の推進」に係る事業を全道各地で実施したほか、企業版ふるさと納税による寄附金を活用した「木育マイスターの活動支援」を開始
2021 (令和 3 年)	・オンライン木育の会（木育マイスター留萌支部）設立 ・北海道で全国育樹祭開催。おもてなし広場にて木育マイスターによる木育体験ブースを出展 ・北広島三井アウトレットパークにて北海道・日本ハムと連携した「木育プロジェクト」を実施	10 期 23 名 (累計 270 名)
2022 (令和 4 年)	・北海道が北海道森林づくり基本計画（令和 4 年度～令和 13 年度）策定 ・令和 4～5 年度にかけて、森林室から林務課に木育業務を移管 ・大分県で開催された全国育樹祭に出展、北海道の木育を全国に発信 ・企業向けに木育を推進する冊子「木でつながる」発行	11 期 14 名 (累計 284 名)
2023 (令和 5 年)	・「企業等と連携した木育推進方策」策定 ・育成研修を A・B 日程開催し、受講者数を拡大 ・各圏域代表等による木育マイスターミーティング開始 ・5 年間で 500 万本の植樹・育樹を目指す「道民ひとり 1 本植樹・育樹運動」の開始を知事が宣言 ・企業向けに木育を推進する冊子「森でつながる」発行	12 期 15 名 (累計 299 名)
2024 (令和 6 年)	・木育ファミリー主催 木育&木育ファミリー 20 周年イベント～「二十歳の木育」開催（イコロの森） ・木育 20 周年記念イベント「木育 NEXT50 ～つながり～」開催（北海道大学学術交流会館）	13 期 24 名 (累計 323 名)
		14 期 46 名 (累計 369 名)
		15 期 44 名 (累計 413 名)